

探究學習白書

2023



一般社団法人 英語 4 技能・探究学習推進協会 編

sample

目次

はじめに	3
目次	4
第1章 探究学習 実践編	7
第1節 総合的な探究の時間のCAN-DOリスト	8
CAN-DO リストとは何か／「総合的な探究の時間」のCAN-DO リストの必要性／CAN-DO リスト／CAN-DO リストの最適化／定量的評価の実現	
第2節 地域課題解決学習の導入事例	17
第3節 探究学習教材一覧	45
第2章 2022年探究学習実施状況調査	55
第1節 調査の目的・調査の対象等	56
第2節 探究学習で取り扱うテーマ	59
探究学習の授業でよく取り扱うテーマ／生徒に人気のある探究学習のテーマ／生徒が将来取り上げてみたいと思うテーマ	
第3節 探究学習を支援する団体	65
学校が支援を受けたことのある団体／学校が支援を決めた理由／支援団体への要望	
第4節 学習課題の設定方法	70
国際理解、情報、環境、健康、健康づくりなどの横断的・統合的な課題／生徒の興味・関心に基づく課題／地域や学校の特色に合わせた課題／職業・自己の将来にかかわる課題	
第5節 探究学習の実践における生徒の学び	72
主体性／協働／自己理解／相互理解／社会参画への関心・意欲	
第6節 探究学習の授業実践と生徒への評価	77
課題の設定に関するサポート／「情報の集め方」についてのサポート／「情報の整理や分析の方法」についてのサポート／「成果の発表方法」についてのサポート／探究活動への割り当て／成績表への評価記入	
第7節 探究学習の進行状況	83
課題の設定に関する進行状況／情報の収集に関する進行状況／整理・分析に関する進行状況／まとめ・表現に関する進行状況／振り返りに関する進行状況／生徒のモチベーション	
第8節 探究学習の達成度	89
複雑な問題状況を踏まえて適切な課題を設定することができるか／仮説を立て、適合した検証方法を明示した計画を立案できるか／目的に応じて臨機応変に情報を収集することができるか／情報を効果的に収集し、多角的・実地的に分析できるか／複雑な問題状況を把握し自分の考えを形成できるか／多様な情報から帰納的・演繹的に考察できるか／事象間の関係比較や複数の因果関係を推理できるか／目的や意図に応じて手際よく論理的に表現できるか／学習の仕方を内省し将来の学習に生かすことができ	

るか	
第9節 探究学習を通して身に付いたスキル	98
第10節 課題や問題点	100
生徒への評価／指導内容／学習場所／保護者の理解／支援団体／生徒のモチベーション／学習指導要領の目標／学習計画／授業進行／予算	
第11節 教員の変化	108
教員自身の変化	
第12節 探究学習の授業時数	111
授業時数は多いか／多い・やや多いと思う理由／ちょうどよいと思う理由／少ない・やや少ないと思う理由	
第13節 探究科目の実施状況	115
2022年実施状況	
第14節 教科書以外にかかる費用	118
国語、地理歴史、公民、数学、理科／保健体育、芸術、外国語、家庭、情報技術、総合探究／国公立別	
第3章 探究学習 最新動向	121
第1節 2022年度探究学習ニュース	122
第2節 探究を入試に採用している大学	177
北海道・東北／関東／中部／近畿（中国）／九州	
第4章 探究学習支援プログラム	197
第1節 支援プログラム一覧	198
第5章 探究科目 学習指導要領	267
第1節 高等学校	268
国語探究／地理歴史探究／公民探究／日本史探究／世界史探究／理数探究基礎／理数探究／総合的な学習の時間	
第2節 中学校	297
総合的な学習の時間	
第3節 小学校	300
総合的な学習の時間	
出典・参考文献等、奥付	303

第 1 章

探究学習 実践編

sample

第1節 総合的な探究の時間のCAN-DOリスト

1. CAN-DO リストとは何か

CAN-DO リストとは、主に言語教育において、生徒の学習進度や能力の習熟度を管理するためのリストのことです。さまざまな学習目標やスキルを立てて、それぞれの領域について「できる」「できない」で示します。例えば、英語の科目の場合、「読むこと」「聞くこと」「書くこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」の5領域に分類し、例えば「簡単なニュースを聞いて大まかな内容を把握することができる」（聞くこと）や「自分のことについて、何も見ずに30語程度の英語で説明することができる」（話すこと（発表））といった目標（スキル）を立てて、それぞれの項目について「できる」「できない」を付すものです。

CAN-DO リストのメリットは多岐にわたります。まず、生徒の学習進度を追跡することにより、個別のニーズや弱点を特定することができます。これにより、生徒ごとに適切な教育計画を立てることができます。また、生徒の成長を定量的に評価することができ、生徒自身も自分の進歩を把握することができます。

CAN-DO リストは、教員間のやりとりを改善する役割も果たします。異なる教員が同じ生徒を指導する場合、CAN-DO リストによって生徒の能力や進捗状況が共有され、教員間で情報共有が容易になります。

CAN-DO リストは、教育の品質向上にもつながります。生徒の学習目標やスキルが明確になるため、生徒の弱点を見逃す機会が減ります。また、具体的な効果的な指導計画を立てることもできます。

このように、CAN-DO リストは教員が生徒の学習進度と能力を継続的に追跡するための重要なツールです。生徒の学習目標の明確化、個別のニーズの特定、教育計画の適応、教員間の情報共有などさまざまなメリットがあります。

2. 「総合的な探究の時間」のCAN-DO リストの必要性

「総合的な探究の時間」は、定量的な評価が難しい科目です。しかし、CAN-DO リストを利用することで定量的な評価が実現できます。また、生徒が主体的に学習に取り組むための方向性と、目標設定を助けることができます。以下に、その具体的な理由をいくつか述べます。

1. 目標設定

生徒は自分が何を達成すべきか明確に理解することができます。CAN-DO リストから明確な目標がわかり、これにより生徒は目的に向かって探究学習を進めることができます。

2. 自己評価の助け

CAN-DO リストは、生徒が自己評価を行い、自分がどの程度理解しているか、どのスキルが弱点かを判断する手助けをします。

第 2 章

2022 年探究学習実施状況調査

sample

2. 協働性

Q. 生徒の学びに向かう力や人間性等の中で、「自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究活動に取り組もうとしている」と思いますか。

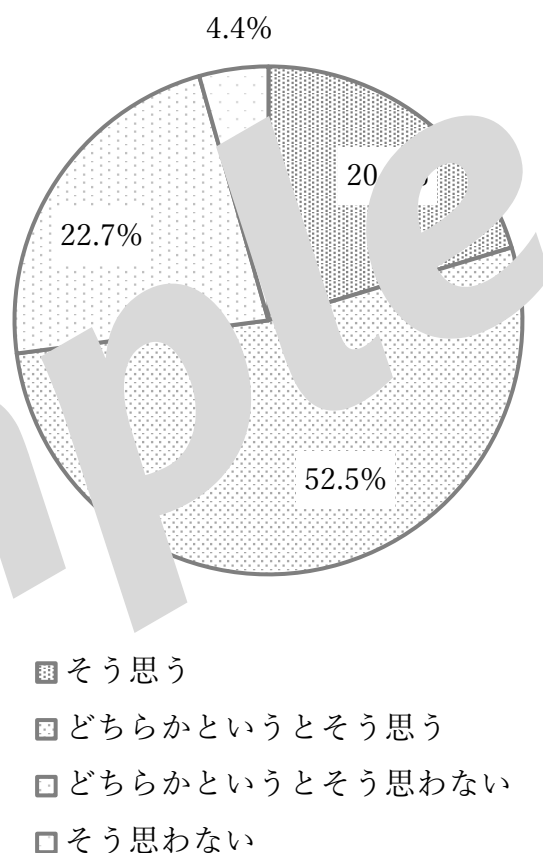
「自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究活動に取り組もうとしている」という視点において、「そう思う」と回答した教員が20.4%、「どちらかというと思う」と回答した教員が52.5%と、合わせて約73%の教員が肯定的な見解を示している。しかしながら、「どちらかというと思わない」と答えた教員が22.7%、「そう思わない」と答えた教員が4.4%と、約27%の教員が否定的な見解を示していることから、全ての教員が生徒の協力的な探究活動を十分に評価しているわけではない。

生徒たちが自他の長所を認識し、協力して問題を解決する能力を十分に発揮できていないと考えている教員もいる。ことから、協働学習の方法や評価基準等についての共有、生徒の協働学習態度を育成する教育方針の見直し、そのための教員自身の協働学習に対する理解やスキルを高めるための研修などが必要である。

また、生徒が自他のよさを生かし協力する機会を増やすことで、生徒自身の自尊心や自己肯定感を高め、社会性を育てるという意義もある。そのため、教育現場

では、生徒が自分自身や他者の強みを理解し、それを活かした探究活動を通して、相互理解や協調性を育む機会を提供することが重要となる。

自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究活動に取り組もうとしている



第 3 章

探究學習 最新動向

sample

第1節 2022年度探究学習ニュース

本節では、2022年度の探究学習に関するニュースを取り上げ、最新の動向、新たな取り組み、研究結果などをまとめています。これらの情報を通じて探究学習の現状と今後の可能性を探り、教育現場での取り組みに生かしていただければ幸いです。

ニュース本文の右には関連するタグを付しました。

2022年4月

●サンライズは、「動くガンダム」を使った探究学習プログラムを公開した。これは経済産業省のSTEAMライブラリーで提供されている。プログラムは小学生高学年と高校生向けに分かれ、それぞれ7日間、10日間の学習コースが設定されている。小学生向けは、「動くガンダム」の概念や機械の構造、仕組み、技術について学び、自身で動くガンダムを作るなどする。高校生向けは、アニメを現実世界に再現する技術、経済的、社会的な課題について学ぶ。

ガンダム
STEAMライブラリー
経済産業省

●ウェルビーイング領域の事業を開発する株式会社アコロビが、2022年4月1日に民間学童「ユレカアフタースクール」を開始した。このプログラムは、民間企業で働く社員や、STEMやダイバーシティなどを対象とした探究型学習プログラムを提供し、非認知能力を育成することを目指す。社会の急速な変化に対応するスキルを育む探究型学習は、学校でも取り組んでいるが、その浸透度合いと質の面で遅れている。ユレカアフタースクールは質の高い探究型学習を提供する。

STEM教育
ウェルビーイング
ダイバーシティ

●株式会社学研スタディエが運営する「あすなろ学院」は、小学5年生から中学2年生を対象にした半年間のSDGs探究学習プログラム「ミライ思考 ゼロワン」を開講する。あすなろ学院はSDGsに関する教育に積極的で、新学習指導要領の改訂に基づき、社会問題解決のスキルを育むプログラムを設計した。プログラムは、東日本大震災の影響を受けた宮城県亘理町を出発点に、地域の環境課題を科学的に探究する内容となっている。

学研スタディエ
SDGs
環境教育

●岡山大学大学院教育学研究科教育科学専攻は、高校生向けのE-PBL AWARD ZEROを開催した。これは、教育を通じて社会課題に取り組

岡山大学
地域連携

第2節 探究を入試に採用している大学

本節では、探究学習をテーマとする総合型選抜採用校を紹介します。なお、「出願資格・出願要件」の項目は特徴のある場合に限り掲載しています。

URL は各大学の該当ページにジャンプします。QRコードに対応しています。

1. 北海道・東北

北海道武蔵女子短期大学（北海道）

総合型選抜 探究型入試

- 学部：教養学科、英文学科
- 特徴・審査方法：出願書類審査、学習報告書作成及び発表・面接等の試験によって、能力・適性等を総合的に評価。
- 出願資格・出願要件：「報告書作成ゼミ」への参加、および「個別相談」を受けた者。
- URL：<https://entry.musashi-jc.ac.jp/exam/comprehensive/>



札幌大学（北海道）

一般選抜 A 日 入試 国際教育を重視

- 学部：地域国際学群
- 特徴・審査方法：探究活動学習を評価の対象とする。
- URL：<https://www.sapporo-u.ac.jp/subject/admission/general-exam.html#ex2>



出典・参考文献等

- 「学校と地域でつくる学びの未来」(文部科学省)
<https://manabi-mirai.mext.go.jp>
- 「平成 29・30・31 年改訂学習指導要領(本文、解説)」(文部科学省)
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm

商標について

本書に掲載されている商品またはサービスなどの名称は、各社の商標または登録商標です。

寄稿者募集のお知らせ

一般社団法人英語 4 技能・探究学習推進協会では、『探究学習白書』に寄稿してくださる方を募集しております。事務局まで電子メールにてお問い合わせください。 info@esibla.or.jp

探究学習白書 2023

2023 年 8 月 31 日発行

編集・発行 一般社団法人 英語 4 技能・探究学習推進協会

〒105-0014 東京都港区芝 5 丁目 14-13 アセンド三田 7 階

TEL 03-4405-3630 FAX 03-5432-9907

<https://esibla.or.jp/>

本書の一部、もしくは全部の無断転載、複製複写、デジタルデータ化、放送、データ配信などの行為は、著作権上での例外を除き禁じられています。

乱丁・落丁本はお取り替えいたします。入手方法を明記して、弊協会へお送りください。

©English four Skills and Inquiry based learning association (ESIBLA) 2023 Printed in Japan